

居住地校交流だより

令和3年9月29日発行〈前期号〉

障害のある子どもたちと障害のない子どもたちが共に活動する機会を通して、互いを正しく理解し、共に助け合い、支え合って生きていくことの大切さを学ぶことができるように、本校でも交流及び共同学習を推進しています。

その一環として、児童生徒が自分の住んでいる地区の学校を訪問する「居住地校交流」を行っています。前期は、小学部1名、中学部7名の児童生徒が交流を行いました。前期に実施した交流の様子を紹介いたします。



長木小学校4年生
楽しいゲームをみんな
で考えてくれました。交
流は、笑顔いっぱい
の温かい時間となり
ました。

東中学校3年生
音楽の授業で、合唱
練習を行いました。パ
ートに分かれて練習
をしたり発表をしたり
しました。

東中学校特別支援学級
1・3年
生活単元学習の授業
で、ゲーム交流を行
いました。それぞれ考
えてきたゲームをみ
んなで楽しみました。

★障害理解授業等のゲストティーチャーによる出前授業の紹介★



居住地校交流を行う前に、本校職員がゲストティーチャーとして交流校を訪問し、出前授業を行っています。初めて交流をする学校や学年では、比内支援学校について（どんな学習を頑張っているのか等）、仲良く交流するためのコツ（笑顔・ポジティブな言葉等）について講話をします。また、友達を思いやって言葉を掛けられるように、簡単なゲームを通して話し方の練習も行います。何度も交流をしている学校では、地域には色々な人がいること（例えば車いすを使用している人、目が不自由な人、目には見えない困った思いをもっている人等がいること）を知ってもらえるよう、テーマを決めて授業を行っています、1年に1～2回の交流ですが、お互いに事前学習をし、有意義な交流になるよう準備をしてから、本番の交流を迎えるようにしています。



講話



体験：ペンの上下



感想発表